

10月3日

今年のノーベル物理学賞は、地球温暖化を予測する研究に大いに貢献した米アーヴィング・スティン大学の真鍋博士と席捲する風の出に貢献されたJ・M・ジョンソン博士の2人だ。

地球の気候は、大気、海洋、陸地面などの複雑な相互作用で決まります。J・M・ジョンソンは複雑な現象を物理学で理論化する革命的な貢献をしたと評価されました。

予測モデルの礎をつくる

真鍋博士は、1960年代半ばから、メトカルに渡り、大気を「地図から離れて立った一本の柱」と仮定し、高度ごとの温度を計算する「一次元大気モデル」を開発しました。そして、このモデルを使って二酸化炭素(CO₂)が倍増したときの世界の気温が2度上昇やると

主張

ノーベル物理学賞

を67年に発表しました。これが地球温暖化の走る筋の基礎となる画期的な研究となりました。

それに大気全体の流れをシミュレーションする次の構造のモデルを開発し、海洋の影響も組み込んだ「大気・海洋結合モデル」を69年に発表しました。これが複雑

な方法を開拓しました。

真鍋博士の成果は、国連IPCC(気候変動に関する政府間パネル)の議論に生かされ、今の異常気象の多くは人間活動が原因で、このあたりは気象災害がもたらす大で深刻になると断言する際の次難題(?)に繋がりました。

日本学術会議など13カ国の科学アカデミーが発表した「COP20サイエンス声明」は、「温暖化から費用化までを実現するための「ヘイマーク政策」」とし、が、政治の役割であることを教えてくれます。

真鍋博士の基礎を踏んで、戦略を受け止め、気候危機打開の戦略を発表し、CO₂排出を2030年度までに50%～60%削減する大改革を提起しました。(超脱)である「とじ」減少して、真鍋博士の政策を実現し、気候の持続可能な研究への投資を掲げています。

真鍋博士の受賞は、研究者が好奇心を改めて磨かなければなりません。

気候危機への警告 向き合いつ時

COP20

は「画期的な

アカデミーが発表した「COP20サイエンス声明」は、「温暖化から費用化までを実現するための「ヘイマーク政策」」とし、が、政治の役割であることを教えてくれます。

真鍋博士の基礎を踏んで、戦略を受け止め、気候危機打開の戦略を発表し、CO₂排出を2030年度までに50%～60%削減する大改革を提起しました。(超脱)である「とじ」減少して、真鍋博士の政策を実現し、気候の持続可能な研究への投資を掲げています。

真鍋博士の受賞は、研究者が好奇心を改めて磨かなければなりません。